

山茶花峠



- 山茶花の茶屋跡
- 一里塚跡
- 荒穂神社跡
- 古賀宿上使屋跡
- 城山城址
- 大魚神社
- 多良宿上使屋跡
- 太良嶽神社
- 留岡八幡社(城址)



多良宿



多良海道とは

長崎街道多良往還・多良道、諫早街道などとも呼ばれ、永昌宿(長崎県諫早市)と塩田宿(佐賀県嬉野市)間の総距離十二里八町(約四十八km)のルートを指す。途中、湯江追分からは山あいのルートと有明海沿いのルートの二手に分かれるが多良宿で合流する。有明海沿いのルートを「竹崎街道」と呼ぶ。



「良いことが多い駅」と書く駅名にちなんで、JR多良駅のホームに設置されている。1回鳴らすと幸せを呼び、2回鳴らすと2人が幸せに。そして3回鳴らすと皆が幸せになるといわれている。



祭神は木花開耶姫(瓊瓊杵尊の妃)。創建は不詳。境内入口の明神上の太良嶽神社は上宮として残し、各社の祭神はそのまま合祀している。秋の例祭では、多良川と糸岐川の北側と南側の区が2年おきに交代で浮立を奉納している。



古賀宿にあった上使屋が、元禄12(1699)年の多良川の氾濫によって流出。その後大魚神社の南にあった庄屋跡に移され、諫早家臣の江口家が留守居役を任された。現在も樹高10m以上のソテツが残っている。かつて、近くには酒屋、菓子屋、豆腐屋などがありにぎわった。



昭和46(1971)年に、多良地区にあった川上神社、荒穂神社、太良嶽神社の三社を合祀。油津海岸に新しい社が建立された。多良岳頂上(1968)年に荒穂神社との合祀の話が持ち上がり、3年後の昭和46(1971)年に遷座された。社殿は解体され、社の跡はゲートボール場になっている。



八幡城跡にある神社で、鳥居に刻まれた銘によると、元禄6(1693)年頃の創建と思われる。ご神体は高さ60cm、幅45cmで明治初年頃の作と思われる木像の応神天皇像。昭和4(1929)年に本殿、昭和7(1932)年に拝殿がそれぞれ新築された。城跡の東西には空堀の跡が見られ、一部は現在畑になっている。



祭神は建御名方神。長野県の諏訪神社の分霊といわれる。もとは瀬戸の諏訪の谷にあったが、集落の氏神として中心地である現在の場所に移された。昭和47(1972)年8月、台風のため拝殿が倒壊。再建は難航したが、昭和52(1977)年11月に新しい拝殿が完成した。



創立年代は不詳。祭神は淀原命・小毘古那命・秋津姫命。昭和43(1968)年に荒穂神社との合祀の話が持ち上がり、3年後の昭和46(1971)年に遷座された。社殿は解体され、社の跡はゲートボール場になっている。



江戸時代、手を焼いていた悪代官を村人が示し合わせて沖ノ島へ誘い、酒に酔ったところを置き去りにした。代官は龍神様に助けを求めたところ、海中より大魚が出てきて背中に乗せて救った。感激した代官が大魚神社と共に海中に鳥居を建立したのが始まりと言われる。現在も代々建て替えられ続け、豊漁と海の安全を祈願し大切にされている。



寛文4(1664)年に建てられ、幕府巡見使や佐賀藩主などが宿泊。元禄12(1699)年多良川の氾濫により流出し、多良宿へ移された。元禄以降も古賀はたびたび水害に遭った。写真は上使屋跡近くの酒蔵跡。



小高い山の上に広がる長さ約70m、幅約40mの広い平地。三方は断崖、西の方の入口には空濠があり、南北朝時代の城跡と伝えられている。入口には佐賀の乱で敗れ、多良に来た武士・志波孝孝の墓碑が建っている。



創建年代は不詳。祭神は海神。大魚大明神とも呼ばれる。諫早家第6代領主茂元公が天和2(1682)年社殿を再興、元禄6(1693)年鳥居を建立し、開運満足、領内の安全祈願所とした。



40段の石段を上がるとご神体があり、社殿はない。その昔、参勤交代の折には休憩所でもあった。風配地区の氏神として祀ることを決めて、12月1日を八天宮の祭日としてきた。昭和40(1965)年11月には、八天宮鎮座百年祭と併せて、風配区制20周年記念として鳥居を建立した。



小田の集落から1600mほど山の方へ行ったところに祀られている。弘法大師祭りには集落の婦人会が心のこもった品々を持ち寄ってお供えし、弘法様にピンクや青の前掛けをし、願いを込めて旗を揚げ、祈願成就、安産、病気の平癒などの祈願をする。



菅原寺の西の丘を越える坂を檀徒坂といい、両側に一基ずつ六地藏が建っている。この様な重制石幢は佐賀・福岡・長崎・熊本などに多く分布している。寺院や墓地の入口に祀られることが多い。



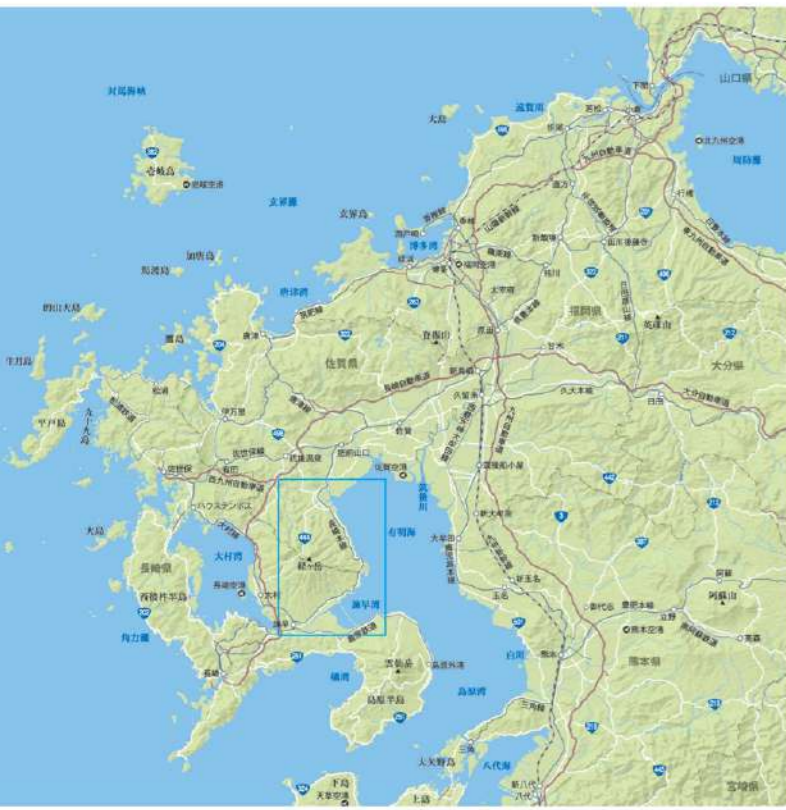
標高約380m、多良海道の中でもっとも高い位置にあり「山茶花峠」とも呼ばれている。茶屋跡の東側の地名を水茶屋と言ひ、西側を山茶花と言う。かつては旅人が休憩するための茶屋があり、餅やトロ口汁をふるまっていた。



一里塚は1里=36町(約3,927m)ごとに街道の両脇あるいは片側に築かれていた。また、一里塚には木が植えてあり、風配の一里塚にも戦前まで松の木があったと言われている。



糸岐の産土神社として祀られ、昭和46(1971)年に川上神社とともに太良嶽神社に合祀。社殿は解体されたため現存していない。かつて行われていた秋の例祭は、浮立などが奉納される盛大な祭りだった。



諫早までのアクセス

- クルマ** 福岡市内から約1時間40分/九州自動車道→長崎自動車道→諫早IC 佐賀市内から約1時間10分/長崎自動車道→諫早IC
- 高速バス** 福岡市内から約2時間20分/博多駅交通センター→諫早IC 佐賀市内から約1時間20分/高速基山→諫早IC
- JR** 博多駅から約1時間30分/博多駅→諫早駅 佐賀駅から約1時間/佐賀駅→諫早駅

太良までのアクセス

- クルマ** 福岡市内から約1時間40分/九州自動車道→武雄北方IC→太良 長崎市内から約1時間/長崎IC→諫早IC→太良
- JR** 博多駅から約1時間30分/博多駅→多良駅 長崎駅から約1時間10分/長崎駅→多良駅

お問い合わせ

諫早市 (長崎県)
〒854-0016 長崎県諫早市高城町 5-10 (一社) 諫早観光物産コンベンション協会
Tel.0957-22-8325
https://www.isahaya-kankou.com

太良町 (佐賀県)
〒849-1601 佐賀県藤津郡太良町大字伊福甲 3488-2 道の駅太良 観光案内所内/太良町観光協会
Tel.0954-67-0065
https://www.tara-kankou.jp/

多良海道 ホームページ
https://tarakaido.jp/

©令和3年3月発行
©編集・発行/歴史の道観光・文化交流推進協議会
©デザイン/(株) イースワークス
©印刷/(株) インテックス



多良海道MAP

(山茶花峠～多良宿)

- 海道 (徒歩可) (車一部不可)
- 海道 (両方通行不可)
- 迂回路 (両方通行可)
- 誘導柱
- 歴史の道百選選定箇所

〈歴史の道百選とは?〉

歴史的・文化的に重要な由緒を有する古道・交通関係遺跡を「歴史の道」と呼び、文化庁が選定しています。令和元年10月に、多良海道の一部である、大越(諫早市高来町)～七曲～長坂～山茶花茶屋(諫早市小長井町)～船倉～矢谷峠(佐賀県太良町)、小川原浦(諫早市小長井町)の2区間が歴史の道百選に選定されました。



スマートフォンで
多良海道と現在地が
確認できます

